

イギリスの教育水準局の監査報告書による特別学校の評価について

横尾 俊
(国立特別支援教育総合研究所)
KEY WORDS: SEND制度, 保護者への情報提供, 教育水準局監査報告書

藤井 茂樹
(びわこ学院大学教育福祉学部)

【1. はじめに】イギリスの教育水準局(the Office for Standards in Education, Children's Services and Skills:Ofsted)は、定期的に学校を監査し、その監査報告書 (Inspection Report)を web 上で公表している。この報告書は、学校の質を維持向上するためだけでなく、保護者への情報提供の役割を担っており、就学先を検討する場合に参考とされているものである。評価観点、総合評価(Overall)、リーダーシップと管理(Leadership and management)、児童生徒の振るまいと安全(Behaviour and safety of pupils)、授業の質 (Quality of teaching)、児童生徒の学業(Achievement of pupils)の5観点において定められている。それぞれの観点では、極めて優れている(outstanding)=1、良い(good)=2、要改善(Requires improvement)=3、不適切(Inadequate)=4の4段階で評価が行われている。

本研究では、特別学校 (Special School)の評価傾向について調査し、イギリスにおける保護者との合意形成のために提供される情報のひとつがどのようなものかを明らかにしたい。

【2. 目的】教育水準局が行った特別学校について監査の報告書に記述された評価点を分析し、その傾向を調べることで、特別学校における評価の現状を明らかにし、基礎的な資料を得る。

【3. 方法】教育水準局の web ページで2017年3月29日時点で公表されている特別学校の監査報告書を検索し、得られたデータを利用した。データはPDF形式で提供されている。

【4. 結果】web ページには、995校の監査レポートが公表されていた。そのうち、24校については簡易な監査報告書(Short Inspection Report)のみの公表であり、評価点について見る事ができなかった。評価点が明らかとなった972校についての報告書の年度は、2010年が3校、2011年が21校、2012年が111校、2013年が268校、2014年が291校、2015年が173校、2016年が76校、2017年が29校であった。以下に学校形態と各観点の評価点についての結果を示す。

(1)学校形態：学校形態を見ると、Community Special Schoolの割合が多く、次いでAcademy Special Converterが次に続いている。近年のアカデミーへの形態変更や、規制緩和によるフリースクールの開設が特別学校においても見られることが分かる。

表1 学校形態 (N=995)

形態名	学校数(割合)
Community Special School	651(65.4%)
Academy Special Converter	173(17.4%)
Foundation Special School	84(8.4%)
Non-Maintained Special School	63(6.3%)
Free Schools Special	14(1.4%)
Academy Special Sponsor Led	10(1.0%)

(2)各観点における評価点の傾向：いずれの観点においても、極めて優れているが30%を超える値となっている。特に子どもの振るまいと安全に関する項目は過半数を超えている。また、標準偏差をみてみると、全項目とも0.6付近の値であり、評価点のばらつきが小さいことがわかる。

特別学校の評価としては、要改善と不適切とされる学校は少ない傾向にあり、良いと極めて優れているとされる学校が多いということがいえる。

表2 各観点の評価点の傾向

	極めて優 れている	良い	要改善	不適切	評価点平均 (標準偏差)
総合評価 (N=972)	369 (38.0%)	544 (56.0%)	40 (4.1%)	19 (2.0%)	1.70 (0.64)
リーダーシップ と管理 (N=972)	389 (40.0%)	530 (54.5%)	34 (3.5%)	19 (2.0%)	1.67 (0.64)
子供の振るまい と安全(N=947)	510 (53.9%)	397 (41.9%)	26 (2.7%)	14 (1.5%)	1.51 (0.62)
授業の質 (N=972)	368 (37.9%)	548 (56.4%)	48 (4.9%)	8 (0.8%)	1.69 (0.60)
児童生徒の学業 (N=972)	370 (38.1%)	546 (56.2%)	48 (4.9%)	8 (0.8%)	1.69 (0.60)

*子どもの振るまいと安全については、2012年1月以前の(25校)データは、子どもの振るまい、子どもの安全に分けて評価されているため、全体のデータから除外している。

【5. 考察】本研究の結果から特別学校が極めて優れていると良いと評価されている割合が多いことが分かる。このことは、Ofsted(2017)によれば、2016年9月から2017年8月までの期間に小学校(primary school)1,097校、中学校(secondary school)262校行われた監査結果が表3の様なものであることから、特に極めて優れているが多いことについては、特別学校の評価の特徴としても妥当だろう。

表3 小中学校における Ofsted の2017年の評価

	極めて優 れている	良い	要改善	不適切
小学校(N=1,097)	3%	70%	21%	6%
中学校 (N=262)	3%	47%	35%	15%

【6. おわりに】こうした結果になることは、特別学校の教員の専門性が高く、学校環境が良好である事が推測できるが、一方で教育水準局の監査担当官の特別学校への期待が余り高くないために起こっている可能性があるという指摘もある(Laura,2015)。どちらが真実であるかを容易に明らかにすることは難しいが、特別学校の学習環境が良好であるとの評価は特別学校への就学を選択した保護者と本人にとって心強いものであるということが出来る。また、今後、評価点だけでなく、報告書内容の精査を行うことで、求められている学校の姿を明らかにする必要がある。

【引用文献】

Laura Mcinerny(2015) Top Ofsted rating for many SEN schools -so why aren't we trumpeting success? The Gurdian.2015.1.20

Ofsted(2017) Maintained schools and academies inspection outcomes as at 31 December 2016

(YOKOO Shun,Fujii Shigeki)